

漁港漁場整備事業の推進に関する技術開発の方向（令和4年8月改訂版）の概要

「漁港漁場整備事業の推進に関する技術開発の方向」は、計画的に技術の開発と普及を図るため、「漁港漁場整備事業の推進に関する基本方針」※¹に基づいて、「漁港漁場整備長期計画」※²の重点課題を踏まえつつ、国、地方公共団体、研究機関、大学、民間団体等が連携し、優先して取り組む21の技術課題と57の技術開発テーマを取りまとめたものである。

【背景】

水産業・漁村を取り巻く状況が依然厳しい中、需要に応じた養殖生産への転換や輸出促進等の取組が展開されており、またグリーン化やデジタル化等、新たな社会情勢の変化にも対応していくことが求められている。このような状況を踏まえ、基本方針に即して、長期計画を早期かつ確実に推進していくためには、現在抱える技術的課題を迅速かつ的確に解決していく必要がある※³。

重点課題

産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

「海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

グリーン化の推進

技術課題

(1) 拠点漁港等の生産・流通機能強化

- 圏域内の生産・流通拠点の再編・集約による生産・流通機能の効率化
- 流通拠点や地域の中核的な漁港などの機能の強化
- 水産物輸出に対応した生産・流通体制の整備

(2) 養殖生産拠点の形成

- 一貫した養殖生産体制と流通ネットワークの構築
- 安定的な養殖生産を支える環境整備

(1) 海洋環境の変化に適応した漁場生産力の強化

- 海洋環境の把握とその変化に適応した漁場整備
- 新たな資源管理の取組と連携した水産資源の保護・育成
- 藻場・干潟・サンゴ礁の保全・創造
- 閉鎖性水域における漁場環境改善の推進

(2) 災害リスクへの対応力強化

- 漁業地域の安全・安心の確保及び災害発生後の地域水産業の早期回復を可能とする対応力の強化
- 既存ストックの予防保全型の老朽化対策の推進
- 気候変動も考慮した施設計画・設計及びモニタリングの推進

(1) 「海業」による漁村の活性化

- 漁港の多様な利活用の促進
- 地域活性化の取組との連携

(2) 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- 漁港・漁村における就労・生活環境の改善
- 地域を支える多様な人材の育成

- 漁港・漁場におけるカーボンニュートラルの実現
- 漁港・漁場・漁村における環境負荷の低減

デジタル社会の形成

- 漁港漁場整備・管理等へのICT及びロボット技術の活用

生活スタイルの変化への対応

- 漁港・漁村における感染症対策の実現

その他

- 働き方改革等に対応した漁港漁場工事の適切な推進

※¹ 令和4年3月22日変更

※² 令和4年3月25日閣議決定

※³ 基本計画「II. 漁港漁場整備事業の効率的な実施に関する事項」の5（1）：「（略）優先して取り組む技術課題を定め、現場における効果の検証を行いつつ、計画的に技術の開発と基準やマニュアルなどの整備・提供などによる普及を図る。」